

B's Research 第1回

高校2年生が考える
グローバルな大学

真の理解を促す広報を行い 高校生の視野を広げる

本連載では、大学教育や進学に対するステークホルダーの意識調査の結果を紹介する。第1回は高校2年生を対象に、「グローバル」という言葉のイメージと留学に対する意向について調査した。グローバルに「人材」や「大学」という言葉を付けて聞いた結果でも、共通しているのは「英語」や「国際」という狭義のイメージが強いことだ。高校生の視野を広げ、本来のグローバルの意味を理解させる広報が、大学には求められるのではないだろうか。



【設問】「グローバル」と聞いて、思い起こすことは何ですか

「英語」という回答がトップ
「インターナショナル」と意味の混同も

順位	思い起こすイメージ	%
1	英語・語学・英語力	22.2
2	世界・世界共通・世界的な	14.6
3	国際化・国際的・インターナショナル	9.9
4	グローバル化・グローバル社会	8.5
5	インターネット・ネット	6.6
6	海外・外国・外国人	4.7
7	社会	4.2
8	つながり・世界とつながる	3.3
9	経済・経済力・世界経済	2.8
9	情報・情報化社会	2.8

※上位10項目抜粋(自由回答)

「グローバル」のイメージを自由記述で聞いたところ、「英語」という回答が最も多かった。「語学」「英語力」を含めると5人に1人が国際共通語である英語を想起している。第3位は「国際化」「国際的」で、「international」にあたる言葉だ。「global」は本来、「地球全体の」「世界的な」という意味であり、国や民族、文化を超えて共生するという意味を持つ。社会人でもグローバルとインターナショナルを混同している人は多く、高校生にも同様の結果が表れている。

【設問】「グローバル人材」と聞いて、どんな人をイメージしますか

「世界に通用する能力を持っている人」の回答が多数
女子生徒のほうが、具体的なイメージを抱いている

順位	イメージ内容	全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)
1	世界に通用する能力を持っている人	48.1	39.7	51.3
2	国際化に取り組む人	40.1	22.4	46.8
3	英語が得意な人	39.2	34.5	40.9
3	国際機関で働く人	39.2	29.3	42.9
5	海外で働く人	37.7	20.7	44.2
5	コミュニケーション能力がある人	37.7	37.0	39.7

※全30項目から回答の多かった上位6項目を抜粋(複数回答)

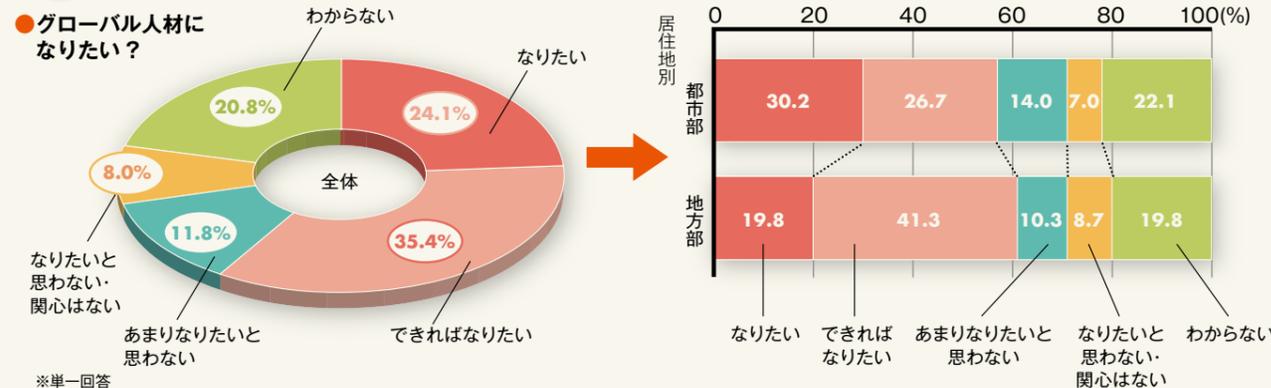
全体では、「世界に通用する能力を持っている人」(48.1%)が1位となった。2位以下の結果では男女差が出ており、男子は「英語で会話する」、

女子は「働く状態」をイメージするような結果に分かれた。図表には掲載していないが、全体で見ると6位以下も僅差であり、「行動力がある人」

(22.6%)、「地球規模でものごとを考える人」(22.2%)などの、「語学」や「国際」に関連しないイメージを持つ生徒が一定数いることにも注目したい。

【設問】「グローバル人材」になりたいと思いますか

なりたいたいが、留学には消極的

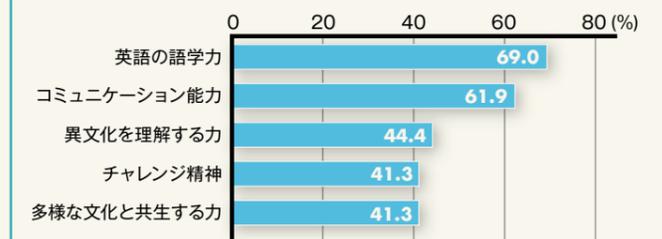


「なりたいたいが」「できればなりたいたいが」と回答した生徒は約6割。居住地別に都市部と地方部*で分析したところ、「なりたいたいが」は、都市部で3割、地方部で2割と差があった。また、留学したいか聞いたところ、約3割が「留学したいとは思わない」と回答。1年以上の長期留学を望む生徒はわずか1割だった。

グローバル人材になりたいか、留学したいのか決めかねている生徒がそれぞれ約2割あり、こうした生徒に大学入学後、視野を広げさせる教育も必要だと思われる。

*都市部=首都圏(埼玉・千葉・東京・神奈川)と近畿(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山) 地方部=都市部に分類した都府県以外の道、県

●グローバル人材になるために身に付けたいと思う力



※全22項目から上位5項目を抜粋(複数回答)
※上記設問で「なりたいたいが」「できればなりたいたいが」と回答した126人の回答

【設問】「グローバルな大学」と聞いてイメージにあてはまるものは

「留学制度の充実」や「英語による授業」のイメージが強い
進学状況別の高校区分によって差が見られる

順位	国公立や難関私立大学への進学者が多い高校に在籍(n=70)	%	中堅レベルの大学への進学者が多い高校に在籍(n=72)	%	短大や専修学校への進学者が多い高校に在籍(n=35)	%
1	キャンパス内に国際交流ができる施設がある	40.0	留学プログラム・海外提携大学が多い	47.2	英語による授業を実施している	37.1
2	国際的な研究をしている	40.0	国際的に活躍できる高度な人材を育成している	44.4	海外からの留学生を多く受け入れている	34.3
3	国際的に活躍できる高度な人材を育成している	38.6	海外からの留学生を多く受け入れている	43.1	留学プログラム・海外提携大学が多い	34.3
4	英語による授業を実施している	37.1	英語による授業を実施している	43.1	海外留学する学生が多い	31.4
5	海外留学する学生が多い	35.7	海外留学する学生が多い	38.9	国際的に活躍できる高度な人材を育成している	31.4
6	留学プログラム・海外提携大学が多い	35.7	キャンパス内に国際交流ができる施設がある	38.9	国際やグローバルという名称を冠する学部がある	28.6
7	海外からの留学生を多く受け入れている	34.3	外国人教員が多い	34.7	海外に拠点のある企業に就職する人が多い	25.7
8	コミュニケーション能力の育成に力を入れている	27.1	コミュニケーション能力の育成に力を入れている	34.7	コミュニケーション能力の育成に力を入れている	25.7

※全23項目から回答の多かった上位8項目を抜粋

全体では「留学プログラム・海外提携大学が多い」「英語による授業を実施」が同率1位(38.2%)。在籍高校の進学状況別に集計すると、国公立や難

関私立大学への進学者が多い高校では「キャンパス内に国際交流ができる施設がある」「国際的な研究をしている」がそれぞれ40%、中堅レベルの大

学への進学者が多い高校では留学に関する事項が上位に挙がり、短大や専修学校への進学者が多い高校では英語による授業の実施が1位となった。

調査概要

- 調査主体: 進研アド Between 編集部
- 調査時期: 2014年2月
- 有効回答数: 212人
- 調査方法: インターネット調査(スマートフォン保有者対象)
- 調査対象: 高校2年生(2014年4月現在 高校3年生)